令和4年度 事業報告書

~ 挑戦、シン化。そして未来へ ~

自 令和 4 年4月 1日 至 令和 5 年3月 31日

★ いわき商工会議所

I 令和4年度事業総括

令和 4 年度は、新型コロナ感染症の長期化に加え、ウクライナへのロシアの軍事侵攻継続、原 材料費や販売管理費の高騰、半導体を始めとする部材の供給不足、電力需給のひっ迫などを背 景として、非常に厳しい経済情勢が続いた一年でありました。

一方、いわき花火大会、いわき七夕まつり、いわきおどり、なこそ鮫川花火大会を始めとする夏まつりが関係者の熱意と努力のもと3年ぶりに開催されるとともに、いわき FC が J3 リーグ優勝と J2 昇格を果たすなど、徐々に賑わいを取り戻し始めた年でもありました。

こうしたなか、11 月の議員・役員改選期に伴い掲げた新たなテーマ「挑戦、シン化(新化、進化、深化、伸化)。そして未来へ」のもと、行政、地域の関係機関、全国各地の商工会議所、会員事業所とのネットワークを生かしながら、懸命に事業継続と新たなチャレンジに取り組む事業者への経営支援と、激化する都市間競争の中で選ばれるまちとなるための産業・地域振興活動を次のとおり推進しました。

第一に、最重点であります「中小企業・小規模事業者の「挑戦」への支援」では、中小企業や小規模事業者の現状・課題を絶えず把握しながら、新たな市場の開拓、新商品や新サービスの開発など経営全般に関する支援や次時代の地域経済の新たな担い手となる創業者の育成や事業者が自ら取り組む新分野、新事業への「挑戦」を強力に支援しました。

第二の「魅力あるまちづくりの推進」では、「住んでみたい、暮らしやすい」と思えるような魅力 あるまちづくりを創造するため関係機関と連携しながらスポーツや文化の振興を通じた活力ある まちづくりや各地区の市街地再整備事業などを支援しました。

第三の「次代を担う産業と人財の育成」では、カーボンニュートラル推進に向けての報告書を取りまとめるなど、関係機関や行政と連携した取り組みを積極的に実施しました。また、学生等の郷土愛醸成のため「いわきアカデミア」事業では、魅力あるプログラムの再構築を行い、次世代の地域リーダーの育成など各種講習会等を通じた産業人財の育成にも注力しました。

1. 中小企業・小規模事業者の「挑戦」への支援

(1)経営持続化のための経営相談体制の強化

厳しい経済情勢が続く中、会員事業所約 700 社(回答 200 社)を対象に景況に関する調査を実施し、

会員事業所の経営状況・課題等の把握に努めるとともに、専門家と連携しながら事業所の直面する課題に対応した相談体制の強化を図り、経営持続化を支援しました。

主な相談内容は、各種支援金・補助金の申請、制度活用に伴う事業計画策定、資金繰りの安定化への対応等であり、令和 5 年 10 月に導入される消費税インボイス制度では、対策のための講習会の開催(5 回)、適切なインボイス制度の登録申請や電子帳簿方保存法の対応への支援を行いました。



また、新型コロナの影響を受けた会員事業所の事業継続・回復を支援するため、登録確認機関として「事業復活支援金」の事前確認・申請を支援しました。

【支援金申請実績】事業復活支援金 259件

(2)いわき創業スクール

高齢化に伴う廃業が増加する中、新たな地域経済の担い手となる創業者を創出・育成するため、経営に必要な知識や事業計画策定など役立つノウハウを習得する体系的な講座を開催しました。また、創業者間のネットワーク構築や創業後の円滑な事業展開など継続的なサポートを行いました。

【概要】

- ·期間;令和4年9月20日~10月25日(計7回)
- ·講師;中小企業診断士 奥瀬 円 氏
- ・カリキュラム

資金調達と公的支援制度の活用、財務会計の基礎知識 経営者に必要な法知識、人事・労務の基礎知識 マーケティングの基礎知識

地域(先輩)創業者による体験談

·受講者数 <u>21名</u>



(3)チャレンジ支援

販路・新市場の開拓、新商品・サービスの開発、業務効率化、SNS 活用による情報発信等、会員事業所を はじめ、中小・小規模事業者のポストコロナへの新たな「挑戦」を支援するため、補助金等支援策に関する 情報発信や申請支援、事業計画策定支援など、専門家と連携を図り、きめ細やかで幅広い伴走型経営支援を 実施しました。

①中小・小規模事業者の経営持続化のための伴走型支援

各種補助金支援実績

制度名	採択件数	申請支援
小規模事業者持続化補助金(計 4 回)	39件	62件
ふくしま小規模企業等いきいき支援事業補助金(計3回)	10件	13件
いわき市中小企業・小規模企業経営発達補助金	1件	8件
福島県中小企業等グループ補助金	7件	7件
※令和3年・4年福島県沖地震被災事業者の復旧再建、BCP 策定支援	<i>1</i> 1 + 1 + 1	<i>(</i>) +

▶ 専門家派遣による経営支援実績

中小企業診断士、社会保険労務士、税理士、弁理士、マーケティング識者など、各専門家との連携しながら、各種補助金等活用、新事業に必要な事業計画の策定、マーケティング等を支援しました。

- · 走型事業専門家相談 128 件
- ・ 福島県よろず支援拠点特別相談 194 件

②事業計画策定支援(個別相談会)

専門家と連携し、小規模事業者持続化補助等の各種支援制度活用に 伴う事業計画策定のノウハウ習得、小規模事業者の自社分析、知的経営 資産の見出しに繋がる伴走型支援(個別相談会)を実施しました。

経営指導員の支援事業者で、ポストコロナに向けた新たな事業に挑戦する前向きな小規模事業者が参加、事業計画策定に繋がりました。

【実績】 10事業所

③SNS 活用支援

マーケティングに必要な SNS 活用のノウハウ習得、情報化等のため SNS活用セミナーを実施しました。中小・小規模事業者の情報発信力、 マーケティング強化に繋がりました。

【第1回 マーケティング編】 <u>17事業所20名 個別相談6事業所</u> 【第2回 情報発信編】 <u>26 事業所31名</u>





④事業承継・ポストコロナの取組を支援「企業ひと技応援ファンド」

産・官・金融連携のもと、次世代に承継すべき「技術・商品・サービス」を持ち、事業承継やポストコロナを見据 えて新たな事業に挑戦をする事業者に対して、クラウドファンディングを(資金調達)活用し、新商品・サービス の開発、新たな販路開拓等の取組を後押ししました。

新たな事業に挑戦する事業者の資金調達(目標金額)の実現だけでなく、クラウドファンディングを通じた事業者の認知度向上、ファン拡大、同事業に参加した事業者間のネットワーク構築、事業連携等に繋がりました。

【実績】8事業所、資金調達(総額) 6,501,500円





⑤首都圏等の副業人材活用事業

ポストコロナに挑戦する域内事業者が、首都圏の大手企業等で活躍する副業人材のノウハウを活用する ことで、自社の経営課題解決に繋がるよう人材マッチング支援、解決策等を提案しました。

企業における人材活用だけでなく、首都圏等の人材と地域企業が関わりを持つことで、良質な人材層とのネットワーク構築、関係人口の拡大、地域発信力強化、地域活性化への相乗効果などが期待されます。

【実績】Skill Shift「副業人材マッチング事業」 <u>5社・6件(事業)マッチング</u> 副業人材交流事業 首都圏人材8名より6 社等へ提案

(4)いわき支え合いマルシェ

長引くコロナ禍の影響で苦境に立たされた飲食業や取引先、物産事業者等を 支援するため、比較的影響が少ない民間企業の協力を仰ぎ、民×民による「いわき 支えあいマルシェ」を実施しました。今後もネットワークを活かして連携していきます。

開催日	出 店 先	参加店数	品目
6/17	東北電力㈱いわき営業所	6	野菜·菓子·乳製品等
10/22~23	東部ガス(㈱(ガス展)	5	パン・水産加工品等
1/5	パレスいわや(新春市民交歓会)	4	地酒・地ワイン

(5) いわき ALE プロジェクト

市内 3SC(イオンモールいわき小名浜、エブリア、ラトブ)がコラボした「いわき ALE プロジェクト」を実施しました。コロナ禍による小売業の売上減少や、イベント中止による芸術文化の披露機会の減少等の課題に対し、商品券や地域産品が当たる「抽選会」、地元小規模事業者の出店・販売機会の創出(いわき再発見マルシェ)、学生フラダンス演舞、地元音楽家の演奏会等を実施することで、消費行動の喚起、芸術文化披露・発信で市民に活力を与えることができました。



(1)スポーツによる人・まちづくりの推進

Jリーグ(J2)に昇格した「いわきFC」や、いわき出身プロスポーツ選手との交流機会を創出することで、スポーツを通じた人材育成を推進しました。また、いわきスポーツクラブ、ふくしまベースボールプロジェクト等のスポーツによる地域活性化・人財育成に取組む団体と連携を図り、スポーツ体験イベントや企業訪問型健康講座等を実施しました。各種事業、大会等により県市外から選手、指導者、学生等の往来が増え関心交流人口の拡大に寄与しました。

- ▶ ドリームチャレンジ in J ヴィレッジ(令和 4 年 10 月 2 日)・サッカー教室(20 名)、運動教室(18 名)、各種スポーツ競技体験等
- 企業訪問(アウトリーチ)型健康講座(令和4年12月26日)・大日ケミカルいわき工場へいわき FC トレーナー派遣・健康講座(13名)
- ▶ 「プロ野球千葉ロッテマリーンズ佐藤都志也選手講演会」(令和5年1月7日)
 - ・いわき産業創造館/市内中学校 22 校(78 名)がプロ選手と交流
- ▶ いわき FC J3 優勝報告&J2 昇格記念パレード(令和4年12月4日)
 - ・いわき駅前大通りで昇格記念パレード 約 2,000 名が来場。地元チア団体、吹奏楽団で街が賑わった









(2)いわき移住の推進

県、市とともに「IWAKI ふるさと誘致センター」を運営し、首都圏での移住相談会、オンラインによる移住セミナーの開催、動画配信など、コロナ禍にあっても、積極的な移住促進に努めました。

また、企業課題解決型ワーケーションツアーやワーケーション応援プランの実施、県外企業を対象にした企業研修プログラムの活用、いわきに関心のある方々との繋がりを深める「いわきファンクラブ」設立・ふるさと絆便の展開、移住サポーター制度による移住受入体制の充実など、いわき移住、関心交流人口の拡大に繋がる各種事業を実施しました。

【移住実績】28組41名

【ワーケーション応援プラン滞在支援】 延べ45泊36名





ワーケーションツアーでいわきと繋がる参加者

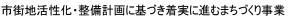
(3)まちづくり支援

いわき市中心市街地活性化基本計画に基づくいわき駅周辺の再開発事業、常磐地区市街地再生整備基本 計画に基づく湯本駅前の再生整備事業など、各地区委員会などにおいて地域の状況把握、地域経済の振興や まちの賑わいに結び付くよう連携協力を図りました。

また、コロナ行動規制の緩和により経済活動が動き始め、3 年振りに開催となった各地区の祭事・イベントなど、地域の賑わい創出、魅力発信に支援協力しました。









3年振り開催 賑わう平七夕まつり

まちづくり推進では、東京大学先端科学技術研究センター(東大先端研)と連携し、まちのデザイン、公共空間活用等まちづくりの有識者を招いたフィールドワーク・ワークショップを実施しました。

また、いわき市の抱える公共交通の課題整理、次世代交通技術の活用を見据えながら、市民が豊かさを実感でき、暮らしやすいまちについて調査研究する「公共交通研究会」を設置しました。

今後、国の政策、都市計画・立地適正化計画や総合交通戦略等の行政計画の動向を捉えながら、 各地域のまちづくりを支援、推進していきます。







3. 次代を担う産業と人財の育成

(1)カーボンニュートラル推進

「いわき市カーボンニュートラル推進に係る検討会」において、

いわき市のカーボンニュートラルの方向性等について提言・報告書をまとめました。報告書では、排出源における CO2 の抑制だけでなく、小名 浜港における再生可能エネルギーの導入、水素・アンモニア等の基地と しての東港整備、近年注目される「吸収源」としての森林や海洋藻場によるブルーカーボンクレジットの創出等についても言及しており、多様な 角度から脱炭素の方向性について検討しました。



提言・報告書は、令和 4 年 10 月 4 日に、いわき市長へ報告、環境人材の育成など、官民連携で取り組むことを確認しました。

(2)バッテリーバレーフェスタ 2022

再エネ・水素・蓄電による産業振興のため、(一社)バッテリーバレー 推進推進機構と連携し、「バッテリーバレーフェスタ 2022」を開催しました。

- ▶ 講演会「地方から始める脱炭素社会の構築」、リーディング企業の研究開発 (プレゼン)を実施、カーボンニュートラルやスマートグリッドへ理解を深めました。 【12/16 いわき PIT】会場参加55名、オンライン動画視聴211回
- ➤ エネルギー技術の体験・意識醸成を図るため、防災・アウトドアのエネルギー確保をテーマに、 FCV・EV、燃料電池電源車等を展示、有用性を PR しました。 【11/13 アクアマリンパーク】約 2,000 名来場。
- ▶ 未来の産業界を支える人財育成を図るため、トヨタ自動車と連携した小学生向け 燃料電池教室を開催しました。【10/22~23 中央台公民館】 小学生40名参加

(3)ものづくり企業支援プロジェクト

ポストコロナに向けた販路開拓や技術開発等を伴走支援しました。

①ものづくり企業個別支援プロジェクト

工業系5事業所を選定。脊椎用フレキシブルロット(医療)、エコソイル・干芋 残渣を活用した飼料開発、MIYAVIEブランド展開、FRP製品の販路開拓など、 技術開発、取引先開拓を支援しました。

※支援ユーディネーター 経営支援NPOクラブ 西村 啓 氏、 雫 二公雄 氏 ※ユーディネーター 個別指導10件、販路支援10件



食品製造系5事業所を選定。いわきの農水産物の商品開発、

市内飲食店やJR 車内販売等への販路開拓を支援。

※支援コーディネーター 食のショールムパルズ代表 山﨑 友香 氏(管理栄養士) ※コーディネーター 個別指導15件、販路支援8件







(4)いわきアカデミアの推進

次代を担う人財育成のため、いわきの小・中・高校生に向け、地元企業や産業を学ぶ機会の創出、企業現場、 経営者やそこで働く人たちから職業観、人生経験を学ぶことができる「発見ゼミ(企業見学カリキュラム)」など、 学校教育だけでは学ぶことができない実社会に触れる事業を実施しました。

(1)いわきが誇る企業・技術を知るガイドブック制作

▶ 「会社見学ガイドブック」(市内小学生対象)

いわきの産業・企業を知ることができる冊子制作。小学校の社会科や総合学習での活用、社会科見学を促しました。(掲載 70 社、発行 4,500 部・市内小学校配布)

▶ 「みつけた!いわき 企業ナビブック」

国内トップシェア・世界基準の技術・品質を誇る市内企業の魅力を若い世代に 伝える冊子を制作。三和町出身のタカラ創業者の佐藤安太氏など地元の偉人を 漫画で紹介するなど、郷土愛醸成を図りました。

(掲載7社、発行1,000部・市内高校大学、県就職支援協定校で活用)

②いわき発見ゼミ (市内高校生対象)

いわきの企業を訪問、経営者や社員と出会い、職業・人生感、地域課題への考え方等を学び、人財育成を図りました。また、会社見学サイト「いわ知ル」を制作し、魅力ある地元企業の情報発信を強化しました。

【ワークショップ型(企業訪問による報告型研修)】 県立四倉高校(1年生60名)、県立いわき湯本高校(1年生240名) 【研究ブレスト型(事前の課題設定による解決型研修】 県立磐城桜が丘高校(1年生240名)、県立磐城高校(1年生280名)

③総合学習サポート事業

市内小中高に専門講師(25名)を派遣しました。延べ中学校 4 校・239 名、 高校 2 校 234 名の総合学習をサポートしました。

④「アカデミアアニメ塾」 若者による映像コンテンツ制作・発信事業 (株)ガイナと連携 アニメ講座(全3回)を開催しました。 参加15名(中学生7名、高校・専門学校5名、大学生1名、他2名)

(5)いわき観光経営塾(アドバンスコース)の開催

観光サービス関連5事業者が参加。いわき誘客、関心人口拡大等 観光振興のため、参加事業者が持つコンテンツ磨き上げ、商品化、モニター ツアー等を通じて観光人財の育成を図りながら、首都圏等の企業や団体の 若手・中堅社員に向けた「いわき企業研修プログラム」を開発しました。







